

腎臓科病棟と透析室をローテーション勤務する看護師のストレス

東邦大学医療センター大森病院 2号館 4階東病棟

○高橋淳子（カハシ ジュンコ） 小森美佳 畑なぎさ 宮村由希恵 細川さち子

【目的】

当院では、腎臓科病棟と透析室を1看護単位としローテーション勤務を行っている。先行研究により、透析室で勤務する看護師のストレスについて報告されている。当院においても透析室勤務の看護師にストレスが生じているのか、またローテーション勤務をすることでもストレスが生じているのか、その内容・程度・関連する因子を明らかにし対応策を検討する。

【方法】

透析室勤務とローテーション勤務について計6カテゴリーの自作の質問用紙を配布し回答をexcelで集計、マンホイットニーのU検定を行った。

【倫理的配慮】

本研究以外にデータは使用せず、個人が特定されないよう配慮することを説明した。

【結果・考察】

配布数・有効回答24部。ローテーション勤務のストレスに関しては、「間隔が開くため感覚が取り戻せない」が高い結果であった。看護師・透析経験の少ない看護師では「他科疾患を看ることへの不安」や「抜針への不安」等で高い結果となり、勤務年数で差異を認めた。また、透析室勤務においては「腎不全患者についての学びが得られる」と答えており、ほぼ全員が肯定的な回答であった。

【結論】

先行研究と同様に透析室勤務に対して看護師がストレスを感じていることに加え、ローテーション勤務によるストレスも感じていることが明らかとなった。